

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿) 2022年度Formula Classアドバンス修了式のご報告

拝啓 盛夏の候、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。平素は、当社の事業に格別のご支援をいただき、厚く御礼申し上げます。

さて、今年度より「鈴鹿サーキットレーシングスクール (SRS)」から名称を変更し、新たにスタートした「ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿)」では、2022年度「Formula Classアドバンス」の最終カリキュラムおよび修了式を7月19日 (火)、20日 (水) の日程で行いました。

2021年末より開催してきた「アドバンスコース選考会STEP1」および「同STEP2」を経て選抜した受講生8名を対象に行ってきた「Formula Classアドバンス」は、今回のカリキュラムをもって延べ10日間・合計42時間に及ぶ全日程を無事に終了することができました。これもひとえにご協賛・ご協力いただきました各社の皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げますとともに、ご報告させていただきます。

今後もHRS鈴鹿は世界に通用するドライバーの育成を目標に活動を続けて参ります。引き続きご理解・ご協力賜りますよう、宜しくお願ひ申し上げます。

敬具

2022年7月20日

ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿事務局

●2022ホンダ・レーシング・スクール・鈴鹿 (HRS鈴鹿)

Formula Classアドバンス 最終カリキュラム・修了式 開催概要

■日時: 2022年7月19日 (火)、20日 (水)

■概要: 7月19日 (火) フリー走行 (20分間×4セット)
計測走行 (15分間×2セット)
セット走行 (12周)
7月20日 (水) フリー走行 (15分間×3セット)
計測走行 (15分間×2セット)
セット走行 (12周)
修了式 (スカラシップ選考会進出者発表)

■参加: Vice Principal…中野信治氏
Director…佐藤浩二氏
Instructor…加藤寛規氏・野尻智紀氏・笹原右京氏
アドバンス受講生 8名



コースインに向けてピットでスタンバイする受講生たち。緊張感が漂う



[50音順]

厳しい基準をクリアした8名が進出して挑んだ、 少数精鋭スクール「Formula Classアドバンス」最終カリキュラム

レーシングシミュレータとフォーミュラEnjoyの実車を使用し、基礎運転技能を確認する「アドバンスコース選考会STEP1」(コース使用 合計15時間)と、独自のスクール車両を使用し、フォーミュラカーを操作する基礎技術を審査する「同STEP2」(コース使用 合計24時間)。2021年末より開催してきたその2つのカリキュラムを経て選抜された受講生8名は各回2日間ずつのアドバンスカリキュラムを計4回消化し、今回の第5回目が「Formula Classアドバンス」の2022年度最後のカリキュラムとなりました。

初日の7月19日(火)は身体をウォームアップした後、いつものように全体ミーティングより1日がスタートしました。その後、メカニックによって入念に整備されたスクール用フォーミュラカーに乗り込み、ペダルの高さや踏みしるを確認してから実技トレーニングへ。マシンの個体差に関係なく確実なドライビングができるよう、第4回目カリキュラムの最終日からランダムに入れ替えられたフォーミュラカーの状態を確認しながら20分間のフリー走行を4セットに渡って実施しました。

データロガーをチェックした後、15分間による計測走行を2セットに渡って実施。さらに、12周によるセット走行を行いました。

これらの走行時はスーパーフォーミュラやSuper GT GT500クラスに参戦中の野尻智紀Instructorと笹原右京Instructorが同時走行しました。また、中野信治Vice Principal、佐藤浩二Director、加藤寛規Instructorにはコース脇やピットにて受講生の走りをチェックしていただき、走行後に受講生に対してアドバイスを行っていただきました。



最後まで集中力を切らさず、走り抜くことを目的としたセット走行を2日間に渡って実施



[50音順]

早い段階からベストタイムを記録することを狙った計測走行 最後まで集中力を切らさないことを目的としたセット走行

迎えた最終日の7月20日(水)も走行前に全体ミーティングを実施。中野Vice Principalをはじめ、各Instructorから激励の言葉が掛けられた後、佐藤Directorによってこの日のスケジュール確認と注意点の説明が行われました。

そしていよいよ最後の実技トレーニングへ。まずは初日の7月19日(火)に使った車両からランダムに入れ替えられたスクール用フォーミュラカーの状態と路面の確認を行いながら15分間によるフリー走行を3セット実施。その後、タイヤを新品に交換し、15分間の計測走行を2セット行い、さらに12周によるセット走行を実施しました。

1セット目の計測走行ではまず佐藤樹が2分09秒908をマークしてタイミングボードのトップに。次のラップではその佐藤が2分09秒567をマークして自己ベストを更新。2分09秒248をマークした島影柊磨がそれを上回ります。さらに2分09秒159をマークした森山冬星がタイミングボードのトップに。清水啓伸も2分09秒257をマークし、森山、島影に続く3番手に。しかし、アタック終盤に野尻Instructorと笹原Instructorが受講生たちのタイムを上回り、野尻Instructor、笹原Instructor、清水(啓)、島影、森山、山口大耀、佐藤、洞地遼大、清水佑朔のタイム順となりました。

2セット目の計測走行ではまず森山が2分09秒644をマーク。洞地が2分09秒431をマークして森山のタイムを上回りましたが、すぐに野尻Instructorが2分09秒028をマークしてタイミングボードのトップに。清水(啓)が2分09秒434をマークし、野尻Instructor、洞地に続く3番手に。島影が2分09秒417をマークして野尻Instructorに続く2番手に。野尻Instructorはセクター1からセクター3で自己ベ

ストを更新し、唯一の2分08秒台となる2分08秒636をマーク。その野尻Instructor、笹原Instructor、島影、洞地、清水(啓)、森山、山口、佐藤、清水(佑)のタイム順となりました。

2回の計測走行のベストタイム順にグリッドに並んでスタートした12周によるセット走行では野尻Instructorが良いクラッチミートを披露してホールショットをゲット。3番グリッドスタートの島影が出遅れます。野尻Instructor、笹原Instructor、清水(啓)、森山、洞地、島影、佐藤、山口、清水(佑)のオーダーでオープニングラップを終了。2周目に佐藤が島影をパス。野尻Instructorは2周目のセクター1とセクター2で自己ベストを更新して笹原Instructor以降を引き離すと、そのまま速いペースを維持。独走状態をキープした野尻Instructorがトップチェッカーを受けました。それに笹原Instructor、清水(啓)、森山、洞地、佐藤、島影、山口、清水(佑)と続けました。

計測走行では2セットともにスタート直後は受講生がタイミングボードのトップに立つ好タイムをマーク。最終的には野尻Instructor、笹原Instructorがトップワンツーとなりましたが、果敢にタイムアタックを試みる受講生の姿も印象的でした。

また、12周によるセット走行では野尻Instructorが独走状態となりましたが、その後方では受講生がテールtoノーズの状態を続けながら前走車の動きを観察し、隙あらばパスしようという積極的な走りがうかがえました。



最後のカリキュラムを前に全体ミーティングにもいつも以上の緊張感が漂う



実戦を想定した訓練を実施するHRS鈴鹿の最終段階 「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」への進出者を決定

計測走行とセット走行を終えたその午後には「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」への進出者発表を含む「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」の修了式を行いました。

主催者を代表してホンダモビリティランド株式会社 鈴鹿サーキット モータースポーツ事業部 レーシングスクールセンター所長の荒川基之より挨拶。その後、中野信治 Vice Principalより受講生一人ひとりに修了証書が手渡されました。そして、佐藤浩二Directorより8名の修了生の中から優秀な成績を修めた清水啓伸、森山冬星、佐藤樹、島影悠磨の4名を「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」へと進出させることが発表されました。

これをもちまして、2022年度の「HRS鈴鹿Formula Classアドバンス」までが無事終了しました。この後は選出された4名による「HRS鈴鹿スカラシップ選考会」のカリキュラム(コース使用 合計24時間)を9月6日(火)から行い、さらに高度な実戦テクニックを磨くための様々なプログラムを消化した4名の中から数名を厳選し、2022年度スカラシップ(奨学制度)対象者を11月30日(水)に決定。若手ドライバーの発掘・育成を目的とした「Hondaフォーミュラ・ドリーム・プロジェクト(HFDP)」の育成ドライバーとして2023年シーズンのフォーミュラカテゴリーに参戦する権利が与えられることとなります。

HRS鈴鹿Kart Class・Formula Class アドバンスコースの佐藤琢磨Principal(1997年度修了)は言うに及ばず、2021年シーズンよりF1にレギュラー参戦角田裕毅選手(2016年度修了)を始め、2020年フランスF4チャンピオンに輝

き、今シーズンからFIA-F2に参戦している岩佐歩夢選手(2019年度首席修了)、今シーズンフランスF4に挑んでいる荒尾創大選手・野村勇斗選手(2021年度首席・次席修了)など世界で活躍するHRS出身のドライバーは数多くいます。彼らに倣って今回の受講生たちも成長していくことが期待されます。今後とも受講生たちの活動にご注目いただけますよう、よろしくお願ひ申し上げます。

●Formula Class中野信治Vice Principal

「この10日間のアドバンススクール、皆さんは長く感じただりょうか。それともアツという間だったでりょうか。集中している時間というのはすぐに過ぎ去っていくものです。もし長く感じたとする、それは集中していなかったということなのだと思ひます。

私たちは皆さんが今回学んだことを大切にしていって欲しいと考へています。皆さんが学んだのは、レースを続けるにしてもそうでないにしても役立つことばかりです。速いタイムをマークするとかバトルで競り勝つとか、そういうレースに直接関わる手法だけでなく、私たちは多くのことを教へてきました。大切なのは、聞く側である皆さんにどれだけ熱意があるか、つまり、学びたいという意思がどれだけあるかということ。私たちがどれだけ丁寧に教へようとしても、受け取る側である皆さんがそれらの大切さに気付かなければ全く意味がありません。上達したいという意識を強く持ち、欲しい情報を積極的に聞きに行く。こういったことを心掛けることが本当の学びなのです。そして、そういう意識が強い人が上に行く。人生はそういうことの連続です。これからもそれらを忘れないでいただきたいと思ひます」



中野信治Vice Principalより8名の受講生に修了証書が手渡された

TAICHI

Arai
HELMETS

EAR PEACE

EIKO
Glory of Karting

HRC
Honda RACING

ENKEI

ENDLESS
Challenge to the Future

EXGEL®
KARTING

KTC
KYOTO TOOL

RUSHMAN
RACING

Sabelt

CCI
CORPORATION

SHIBA ENGINE JAPAN
advanced technology products

sparco

DUNLOP

ThreeBond

D.I.D

金夢

TONY/KAIL
TOTAL RACING

NGK
SPARK PLUGS

HEPRAIST

BRIDGESTONE

ODYSSEY
Ultimate Series

PROTEX

PETRONAS

MOTUL

rizoma

RIVALUX
RACING

WIKOS

[50音順]

●「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」候補者のコメント●

◇清水啓伸(しみずひろのぶ) 17歳/長崎県

『アドバンススクールが始まるまでは4輪に乗った経験があまりなく、最初はマシン操作に苦労しました。スクールの最終の2回で、『もう後がない!』と考え、より真剣に臨んだ結果、コツを掴むことができたと思います。個人的な練習時も毎セッションごとに課題を考え、クリアできなかった時はその課題について次のスクールでInstructorの方に克服法を聞くようにしました。課題はまだたくさんあるのでそれらを着実に克服し、自分の得意なところを伸ばしていきたいです』

◇佐藤樹(さとういつき) 19歳/神奈川県

『前回まではそれなりに走れていたと思います。良いタイムでアベレージを刻むこともできていたつもりでしたが、最終日の今日は調子が出ず、正直『終わった』と考えていました。まずはスカラシップ選考会に残れてホッとしました。一番の目標は首席で卒業することです。今回調子が出なかった理由を見つめ直し、改善していきます。また、ドライビング面でもフィジカル面でもやれることを全てやり、全力で頑張りたいと思います』

◇森山冬星(もりやまとうせい) 19歳/大阪府

『スカラシップ選考会に進出するのは第一の目標だったので、まずは進出できて良かったと思いますが、前半戦の結果を考えると思ったような走りは全くできておらず、課題ばかりです。9月からのスカラシップ選考会までに個人的にもたくさん練習して課題を克服していきたいです、そして首席で卒業し、スカラシップを獲得したいです』

◇島影柊磨(しまかげしゅうま) 20歳/香川県

『スカラシップを獲得するという目標の中で第一段階をクリアできたので、そこは良かったと思います。半面、自分の力を出し切れなかったことが今回の反省です。スカラシップ選考会ではこういう悔しい思いをしないよう、全てを出し切れるようしっかり準備していきたいです。私は一度もレースに出たことがないので、スタート時や集団での走行時に課題があります。そういう面を詰めるのは物理的に難しいのですが、Instructorの方々に積極的に質問したり、イメージトレーニングを繰り返したりしてレース経験の差を埋めたいと考えています。また、今日の走行時は脱水症状が出ており、パフォーマンスを発揮できなかったので体力面も強化したいです』



2022年度「HRS鈴鹿Formulaスカラシップ選考会」へと進出する4名
写真左から、清水啓伸、森山冬星、中野信治Vice Principal、佐藤樹、島影柊磨





カリキュラム最終日の朝、スクール用オリジナルフォーミュラマシンとの集合写真撮影を実施



タイヤを効果的に使ったタイムの出し方など、Instructorに積極的に確認する受講生たち



[50音順]



走行セッションの間にもデータロガーをチェックし、次の走行に活かす



トップドライバーから直接アドバイスを受けられるのがHRS鈴鹿の大きな特徴のひとつ



[50音順]